

6. 本時のねらい 乗数が1ふえると積は被乗数分だけふえるという乗法の性質に着目したり、既習の学習内容を手がかりにしたりしながら、9の段の九九を構成することができる。

7. 本時の展開

過程	学習活動	教師の指導・援助	評価規準
<p>つかむ</p> <p>考える</p> <p>ふかめる</p> <p>まとめる</p>	<p>9のだんの九九をつくみましょう。</p> <p>見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> かける数が1ふえると答えは9ずつふえそうだ。 立式する。 <p>今までならったことをつかって、9のだんの九九のつくろう。</p> <p>たしざん方式（乗法の性質）</p> <ul style="list-style-type: none"> かける数が1ふえると答えは9ふえる。 $9 \times 4 = 36$ $27 + 9$、$9 \times 5 = 45$ $36 + 9$ <p>いれかえ方式（交換法則）</p> <p>9×6 6×9、9×7 7×9</p> <p>アレイ図方式</p> <ul style="list-style-type: none"> 1列ふえると9ふえる。 向きをかえる。（交換法則） アレイ図を分割する。（分配法則） <p>9×9 $9 \times 5 = 45$、$9 \times 4 = 36$、$45 + 36 = 81$</p> <p>9のだんの九九は、かける数が1ふえると、答えは9ふえる。</p> <p>次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を見せ、本時は9の段の学習をすることを確認する。 乗法の意味をおさえながら、立式する。 <p>【個に応じた指導】</p> <p>乗法の性質の考え方の子に対しては、「アレイ図を使い、他の方法でできないか」問う。交換法則の考え方の子に対しては、「アレイ図を使って、違う考え方でできないか」問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗法の性質、交換法則、アレイ図の考え方を板書に位置付ける。 分配法則の考え方がでてきたら、簡単に取り扱う。 構成した結果をもとに、つくり方は違って、乗法の性質は成り立つことを確かめる。 9の段の答えに着目させ、次時への意欲につなげる。 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>9の段の九九の構成を、乗数が1ふえると積は被乗数分だけふえるという乗法の性質に着目して考えたり、アレイ図を見方や分け方の違いでとらえたりして考える。</p> <p>A 乗法の性質や交換法則、アレイ図、分配法則を用いて、九九を構成することができる。</p> <p>B 乗法の性質や交換法則、アレイ図を用いて、九九を構成することができる。</p> <p>C 乗法の性質を用いて、九九を構成することができる。</p>